

「鉄道車両製造事業の再編」に関する 申6号 解明申し入れ交渉 2回目②

9.業務移管後においても引き続きE-TECへ業務委託を継続する根拠を明らかにすること。

【解明で明らかになったこと！】

《再編後の委託変更について》

- ・新会社にて判断することだが、一部委託拡大を検討中。
- ・水平分業という言い方を今でもしているが、現実には上下関係になっている場合もある。J-TRECになり、払拭できるかが課題。
- ・委託拡大時、今混ざっている業務を明確に分けて、水平分業を可能としていく予定。

《J-TREC・E-TEC 2社に分ける理由について》

- ・技術的作業と単純作業の役割を分けるのは製造業では一般的なことである。
- ・横浜は波動対応が取れないため、直営率は高くなる。

10.J-TREC及びE-TECの経営基盤確立に向けた基本方針を明らかにすること。

- ・J-TRECの経営状況は、初年度は顧客の見定め時期となるため厳しい経営状況。
- ・現在、E7系、埼京線、横浜線の車両を製造しており、新ブランドとして「sustina」の売り込みをしていく。
- ・新津単独では黒字になる予定。
- ・E-TECの経営状況は、新津、東京総合車両センター等で車両に特化した業務にて安定した経営を実施している。

J-TRECの経営改善への具体策は示されず!

11.「プロダクトライフサイクル」について、業務移管後の考え方を明らかにすること。

《プロダクトライフサイクルから新しい価値を創造するという考え方とは》

- ・グループ内にプロダクトライフサイクルの考え方を確立し、パッケージとして売り込んでいく場面で、他社にもアピールしていく。
- ・設計から廃車までのプロダクトライフサイクルを実施できたのは成果。これをいかに社外に展開していくか、その結果としてグループ会社に関与できるかが課題。

《技術・技能の内在化は本体にあるべきだという考えは変わったのか》

- ・新津創業当初から考え方は変わらず、グループ会社に内在化させていけばよい。

《移管後の他車両センターとの役割分担の変更について》

- ・ライフサイクルを販売するとなると車両の改造等のメンテナンスを行うことになるが、現時点で車両センター等の役割分担の変更は考えていない。

2回目の交渉も具体的な話はなし！次回は11月6日。
残り32項目の解明を行っていきます！